

千葉県言語聴覚士会ニュース

No. 29 2009年3月8日

目 次

第9回総会のお知らせ	1	施設紹介	8
パスワード取得のお願い	1	臨床こぼれ話	9
学術局	2	理事会等報告	10
私の地域勉強会	6	事務局	12
会長から	7	求人情報	14
作業部会から	7		

◇ 第9回総会のお知らせ ◇

千葉県言語聴覚士会 第9回総会・平成21年度第1回研修会を5月17日(日)に開催いたします。会員・会友数が300名を超え、会員のニーズにあった活動をさらに充実させていくとともに、それを支える組織の見直しが必要な時期にきています。総会は今後の県士会活動の方向性を決める重要な場ですので、ご出席いただきますようお願いいたします。

また、総会の後には第1回研修会も開催されます。今回は「脳から見た言語の本質」がテーマです。貴重なお話が聞けるチャンスですので、皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますようお願いいたします。

日時：平成21年5月17日(日)

13:00～14:00 千葉県言語聴覚士会 第9回総会

14:15～17:30 平成21年度 第1回研修会

場所：千葉大学医学部附属病院 3階 講堂

◇ 日本言語聴覚士協会「会員情報提供システム」◇

～パスワード取得のお願い～

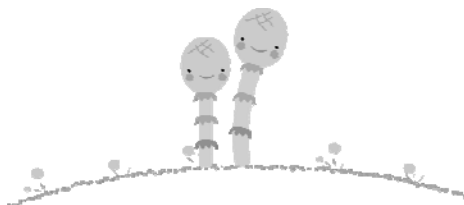
日本言語聴覚士協会(以下、協会)では、会員の個人情報が保護され、かつ会員所属施設などの情報が外部にも提供できるように、2月から会員情報提供システムを導入しました。このシステムの利用により、

1. 住所、所属などの個人情報の変更、修正
2. 正会員所属施設の閲覧
3. 協会から会員宛の不定期刊行物、緊急情報の閲覧

が可能になります。

利用には、各会員が協会ホームページにアクセスし、パスワードを取得する必要があります。県士会でも本システムの運用に協力していきたいと思います。会員の皆様もパスワードの取得にご協力ください。

詳細は協会ニュース53号または協会ホームページ (<http://www.jaslht.gr.jp/>) をご覧ください。



◇ 学術局から ◇

1. 平成21年度 第1回研修会のお知らせ

平成21年度第1回研修会は東京大学大学院酒井邦嘉先生の講演会です。酒井先生は、「システム・ニューロサイエンス (Systems Neuroscience)」と呼ばれる脳科学の分野で、言語脳科学を中心とした最先端の研究をなさっています。脳科学の見地から言語の本質をお話いただき、「言語」をさらに深く学び、考える場にしたいと思っております。また、司会には筑波大学大学院宇野彰先生をお招きしております。

会員外の方もお誘い合わせのうえご参加ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

*日時：平成21年5月17日（日） 14時15分～17時30分

*会場：千葉大学医学部附属病院 3階 講堂

*内容：Ⅰ. 講演会【14：15～16：15】

演題：「脳から見た言語の本質」

講師：東京大学 大学院総合文化研究科 准教授 酒井 邦嘉 先生

司会：筑波大学 大学院人間総合科学研究科 准教授 宇野 彰 先生

参加費：会員500円、会員外1,000円、学生500円

Ⅱ. 懇親会【16：30～17：30】

会費は500円、新人の方は無料です。

*申し込み：同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。

2. 平成20年度 第3回研修会報告

平成21年1月18日（日）千葉大学医学部附属病院にて平成20年度第3回研修会を開催しました。今回は「構音障害」をテーマに症例検討会及び講演会を行いました。講演、助言は昭和大学口腔リハビリテーション科・山下夕香里先生でした。参加者は80名（うち会員70人、会員外10人）でした。研修会の概要と、当日行ったアンケートの結果の一部を紹介します。

研修会の概要

発表1：構音の改善に伴う自己像の明確化

発表者：白井市こども発達センター 言語聴覚士 岩田 淳

「舌足らずの話し方が気になる」、「カ行とサ行の発音がうまくできないので赤ちゃんことばみたい」の主訴で来所した機能性構音障害児に対し約半年の指導経過と児が通う保育所の保育士にアンケート

を行い、家庭、保育園、センター間の連携の実践報告でした。

初期評価で／ka／／kw／／ko／は文レベルで、／ki／／ke／と／s／／ʃ／／dz／／ts／に置換が認められました。しかし、この時点では発音の誤りがコミュニケーションの阻害要因ではなく、やや情緒面の未熟さ、および精神的な不安定さがあることから経過観察を行いました。しかし、半年後、保護者から構音指導の希望が出され、発音に変化が認められず、発音の誤りが少しずつコミュニケーションの阻害要因になってきたため、就学前に指導を終了させることを目標に、指導を開始しました。

開始当初は、発音の誤りを気にせず話し続けたり、言い直しや聞き直しにも意識しないことがあり、保護者から聴取したエピソードからまだ自己と外界との分化がされていないため、時には外界の側にも立つといった視点を移動させることが難しく、自己と外界とが相互的な関係へと発展していないと考えられました。そこで、①環境調整（家庭・保育園との連携等）②誤り音の自覚③正しい構音操作の獲得④正しい音の習慣化を目標にしました。

指導開始から2ヶ月半で「この時間はじょうずなおしゃべりの仕方でするんだよね」と指導場面で自分の発音に意識を向けるようになりました。しかし、生活の中での般化はなかったことから、発音の誤りをもつ子どもへの対応を知るため本児の通園する保育士の方にアンケートを実施しました。結果から、対応の仕方に違いがあることもわかりました。また、担任は「発音の誤りに対する友だちからのからかいはない」との回答でしたが、実情としては周囲から発音の誤りをまねされ、家で泣いていた時期があり、やはり、多くの子どもを集団保育している先生方からすると、上記のような友だち同士のやりとりまで全て把握することは難しく、またこのような問題は表面化しづらいために、先生方に気づかれづらい部分があると思われました。情報交換やアンケートを重ねる中で、交友関係やその他の行動面にも担任の先生が、注意を向けてくれるようになり、構音の般化も担任から、担任以外の先生、友だちへと広がりを見せるようになりました。

指導経過から構音の改善と自己像の明確化の相互関係の中で、外界との適応的行動を獲得するにいたるには、家庭、保育園、発達センターの三者間の連携がよくとれたことなど、環境の条件が良好であったことがあげられます。このように、指導を受ける子どものほとんどが、保育園や幼稚園に在籍しながら発達センターを利用していることから、構音障害をもつ子どもへの周囲の適切な接し方について、構音指導を担う言語聴覚士をはじめ、発達センター等の機関は、関係機関に対して、ニーズを確認しながら具体的な情報提供を行っていくことも、指導の効果をあげるための条件であることが示唆されました。

以上の報告を受けて、山下講師から「発達センターだけでなく、保育園や家庭での児の行動変化を構音の変化とともに経時的に分析し、三者間の連携の重要性を示した点が評価される」との助言をいただきました。

発表2：もやもや病による運動障害性構音障害の症例

発表者：前千葉県こども病院 言語聴覚士 内山 秋音

千葉県こども病院 言語聴覚士 鈴木 麻由美

ことばでコミュニケーションをとりたいとの主訴で来院したもやもや病による運動障害性構音障害の高校生の症例に対して、軟口蓋挙上装置（以下、PLP）を作製し、6ヶ月間構音訓練を行った結果、声量・発話量の増加、鼻咽腔閉鎖機能や口唇などの発語器官の協調運動に改善が認められた治療経過について報告がありました。

訓練当初は口唇・舌の運動機能の低下のため音を産生することができなく、鼻咽腔閉鎖機能不全もあり、開鼻声と呼気鼻漏出による子音の歪みが顕著にみられました。しかし、ブローイング検査や最長呼吸持続時間の測定で非鼻閉より鼻閉の方が持続時間の延長がみられたり、試みに鼻閉し、手指により口唇・下顎の閉鎖を介助すると、／p,b／に近い音を産生することができることからPLPにより鼻咽腔閉鎖機能を改善させ、構音訓練により口唇・舌の運動機能を改善させることで、構音機能が向上し、結果的に音声によるコミュニケーションが促進されるのではないかと考えて、訓練を開始しました。

6ヶ月間の訓練で、PLPを装着して、積極的にブローイング訓練を行ったことで、鼻咽腔閉鎖機能が著しく改善したことから、鼻咽腔閉鎖機能不全はもやもや病による軟口蓋麻痺もあったが、運動経験が少なかったことがより大きな原因と考えられました。

口唇の閉鎖が可能になり、発語器官の協調動作が円滑になってきているため、構音面では／p,b,ja,ma,mu,na,nu,sa,su,f／の音の明瞭度が改善しました。

日常生活でも音声を用いたコミュニケーションが成立し、日常的に音声を使用し、会話中に相手の口もとをみるなど、他者のコミュニケーション態度に関心が向くようになりました。

以上の報告の後で、山下講師による本症例の訓練場面の実際が展開されました。

山下講師から発音やコミュニケーション態度が良くなって行く様子の昭和大学での映像が紹介されました。また、このことは千葉県こども病院チームの取り組みの成果であるとの助言をいただきました。

発表3：脳梗塞による重度運動障害性構音障害の症例

～直接的嚥下訓練により構音が改善した一例～

発表者：船橋市立リハビリテーション病院 言語聴覚士 川田 智子

70歳代の男性で心原性脳塞栓症により運動障害性構音障害（重度、混合性）、摂食嚥下障害（重度）を発症後、当院転入院した症例への直接的嚥下訓練により構音が改善した症例の報告でした。

当初、言語理解は場面に沿った簡単な日常会話は可能であり、表出は構音不明瞭のため聞き取り困難で、筆談での伝達でした。精神機能は低下、脱抑制や危険行動もありました。高次脳機能は注意力低下、記憶力低下、左半側空間無視、感情失禁が認められました。発声発語器官では、口唇は閉口困難、運動範囲不十分（左＜右）で、挺舌は口唇に触れる程度、左右運動は口角に触れる程度、軟口蓋は挙上不十分で鼻漏出がありました。発話明瞭度は「時々分かる～全くわからない」で、異常度は「大変気にかかる」であり、開鼻声が認められ、母音の出し分け不十分でした。摂食嚥下機能は、認知期は食物認知可能でしたが、耐久性低下、意識レベル低下が認められ、持続した経口摂取は困難でした。口腔準備期は口腔器官の運動が拙劣なため取り込み、送り込みに時間を要しました。咀嚼運動は困難でした。咽頭期は軽度の低下があり、若干嚥下反射遅延が認められましたが、ほぼムセなく摂取可能でした。問題点は、嚥下機能の低下により経口摂取での栄養管理が困難、運動障害性構音障害（重度、混合性）により口頭での意思伝達が困難の2点でした。方針は、直接的嚥下訓練を実施し嚥下機能の改善を目指す、発声発語器官の運動にて構音機能の改善を目指す、目標は補助栄養を利用せず、経口摂取での栄養管理が可能となる、筆談を併用して意思伝達が可能となる、としました。

構音訓練に対する拒否があったものの経口摂取に対する意欲が強いため、直接的嚥下訓練を中心に実施しました。40病日でペースト食の取り込みが可能となり、口唇閉鎖力の改善が認められ、口唇音の歪みが軽減されました。140病日では食塊が形成され、咀嚼力が改善されました。舌の巧緻性の改善、単語の明瞭度の改善が認められました。退院時評価では、言語理解は日常会話は可能、表出は数回の聞き返しで口頭での意思伝達が可能になりました。高次脳機能は注意力低下、左半側空間無視（軽度）と向上し、発声発語器官の口唇は突出、横引き可能だが、やや左側が低下、舌は口唇を越えて突出可能、左右運動は反復すると運動範囲縮小、軟口蓋は挙上不十分で鼻漏出があり、発話明瞭度は、時々聞き返しが必要で異常度は「やや気にかかる」、開鼻声が依然認められるものの単語レベルでは明瞭であり、短文レベルでは聞き返しにより、発音を意識できるようになりました。明瞭度が改善し、3食とも軟菜食をほぼ自力で摂取できるようになりました。（藤島の摂食・嚥下グレード：8）

直接的嚥下訓練により、咀嚼・食塊形成など口腔機能の複雑な運動を引き出しました。直接的嚥下訓練が、構音面へのアプローチとしても有効であったことが示唆されました。

以上の報告を受けて山下講師から「事情により構音訓練が実施できない重度運動障害性構音障害症例でも直接的嚥下訓練により発声発語器官の運動機能が高まり、構音機能の改善が得られたという報告は臨床的に貴重であった。」との助言をいただきました。

講演：「構音訓練の理論と実習 ―舌運動を中心に―」

講師：昭和大学口腔リハビリテーション科 山下 夕香里 先生

まず、構音検査を用いた誤り音の分析法について説明いただきました。
「日常的には、構音検査として、単語検査、音節復唱検査を実施すること



が多い。しかし、単語検査のまとめや構音類似運動検査を活用すると、音声学的視点や発声発語器官の運動性から誤り音を分析することができるので、経験の少ないS Tにとっては指導計画が立案しやすい。」と説明があり、具体的な記入例をスライドで説明していただきました。

また、口腔筋機能療法(MFT)を応用した舌運動訓練法の紹介をしていただきました。MFTの訓練法は、器質性構音障害(口蓋裂、舌小帯短縮症、舌癌術後構音障害など)や運動障害性構音障害、機能性構音障害(口蓋化構音、側音化構音など)など様々な構音障害の基礎訓練法(音の訓練に先立って行う発声発語器官の運動訓練)として応用することができます。今回は、舌の基本運動(前方挺出、舌先挙上、舌先口角接触、舌後方部挙上など)を習得させるための手法を紹介していただきました。(1)舌前方挺出から舌のお皿を作り、呼気流出のための狭めを習得し、子音[s]を産生させるまでの各ステップの紹介(2)舌先の力とコントロール性を高める手技(ティップアンドスティック、左右口角接触、スポットポジション、フルフルスポット、リップトレサ)を紹介していただき、各自実際に行いました。(3)舌の側縁を意識して舌全体を挙上する手技(ポッピング、オープンアンドクローズ、タンゴドラッグ、ストローポジション)を紹介していただき、各自実際に行いました。(4)舌後方部の挙上運動について、各自奥舌を十分挙上する感覚を体験しました。舌運動訓練では、訓練目標を具体的に指示していただき、鏡で確認しながら各種の手技をゆっくり、正確に実施することが舌の随意運動性や筋力の改善に重要だと教えていただきました。

アンケート結果 (回答者54名)

<研修会に参加していかがでしたか?>

とても良かった 47名、普通 3名、期待していた内容と異なった 2名、回答なし 2名

<具体的に>

- ・ わかりやすい資料、写真で、臨床場面があり、実技の時間があり、明日からの指導につながります。あきらめないで工夫しようと思いました。ありがとうございました。
- ・ MFTを体験できて、今後の訓練に活かせることがいろいろありました。般化が不良なケースは、基本的な運動指導が不足していたかもしれないと反省しました。
- ・ これまで構音器官の訓練を行う際、舌の使い方を細かく分析していませんでした。実際の訓練において、どのような目標を立てていくのかスモールステップが大切だと、学ばせていただきました。

<研修会の感想>

- ・ 臨床に密着した発表であったことや実習があり、大変わかりやすかったです。MFTに関しては具体的な指導を行えるため、当院でも取り入れたいと感じました。
- ・ 小児から成人まで様々な症例の発表で、大変参考になりました。山下先生と患者さんとのやりとりを実際に拝見でき、先生の患者さんに対する姿勢等も今後の自分の臨床に生かしていきたいと思いました。
- ・ 保育園へのアンケート、PLPを使用した症例については、現在小児の症例、PLPを使用した症例の経験がないので、とても興味をもちました。Dysの症例では現在、嚥下障害の患者さんが多いため改めて自分の行っているリハビリについて考えることができました。MFTの講義はとても興味深く、今後も学んでいきたいと思いました。

<今後の研修会・県士会についての意見>

- ・ 理論と実習・聴覚系・山下先生の構音・失語症・嚥下の勉強会を希望があった。

学術局より <研修会を終えて>

各発表者とも大変丁寧に報告をまとめていただき、興味深い発表ばかりでした。

まず、機能性構音障害の症例では生活場面と訓練場面の連携方法の提案があり、関心が高かったと思われます。また、次の症例では実際の症例に参加いただき、山下講師の臨床を垣間見ることができました。講師の一举手一投足に会場に集まった皆さんが釘付けでした。音の引き出し方だけでなく、症例への優しく温かなまなざしなど症例とどのように関わり、向き合うべきか…と一考する学ぶべきことの

多い貴重な瞬間でした。構音訓練が難しく直接的嚥下訓練から明瞭度が向上した症例では、様々な観点から症例のコミュニケーション向上を目指す発想を学びました。

また、実技を交えた講演では、鏡を見ながら口腔内に神経を集中させました。S Tとして基本的な発声発語器官である口腔内の運動を意識し、運動させることが重要だと再確認しました。

皆様の職場での明日からの取り組みの一助になれるよう願っております。

3. 次年度研修会の症例発表者募集

次年度の研修会での症例発表者を募集しています。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページ、事務所へのFAX、郵送でお知らせください。

4. 研修会ビデオの貸し出しと資料の送付

1) ビデオの貸し出し

これまでに実施した研修会のビデオを貸し出しています。下記の要領でお申し込みください。

方 法：返信用封筒（B5またはA4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

国立精神・神経センター国府台病院 四方田 博英

貸し出しビデオ：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

貸出期間：1ヶ月

＊貸し出しについての注意＊

ビデオの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープの代金を弁償していただきます。

2) 資料の送付

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

5. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。また、ホームページではこの情報について随時更新を行っていますので、ぜひご利用ください。

★★ 特集：私の地域勉強会 ★★

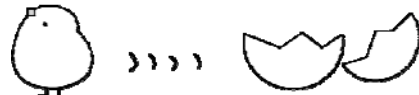
県内各地で行われている勉強会を順番に紹介しています。今回は、市川S Tの会「ひよこ倶楽部」です。

《市川S Tの会「ひよこ倶楽部」》

市川S Tの会「ひよこ倶楽部」は市内のひよっこS T達による勉強、情報交換をする会です。ひよことはいっても臨床経験豊富な先生方も参加してくださり日々の業務内での困り事相談もしています。

会のモットーは『茶話会的な場』であること！！新人でも気兼ねなく患者様の事を相談でき、敷居の高くない、和やかな雰囲気に参加できる会にする事を目指しています。通常の症例検討会も【症例相談会】として発表の形式、分野、疾患等問わず、とにかく気になっていることを皆に聞いてみよう！！という緊張を強いられる場にしない事を大切にしています。

現在は市川市内のS Tを中心とし、急性期～慢性期、医療、介護、



問わず様々な施設の先生方が参加されているのでとても勉強になります。そして、今後の市内のST事情をより良くするために日々精進しています。

立ち上げて間もない会ですが会を重ねるごとに和やかに、かつ、何かしらの収穫を得てあっという間の2時間になっています。また、地域リハビリへの参画も行う予定であり、その一つとして、市川市のST常駐マップ=ひよこマップを作成中です。

市外からの参加も可能です。参加ご希望の方はまずはご一報ください！！

事務局：らいおんクリニック 047-488-1885 畠中 理江
市川市行徳駅前4-2-6
メール hiyoko_st@yahoo.co.jp
※ご連絡は基本的にメールでお願いいたします。

◇ 会長から ◇

委員会・作業部会訪問報告

千葉県言語聴覚士会は三つの局の他、委員会や作業部会が理事会の目や耳、手足となって働いてくださることで成り立っています。今年度も会長が委員会や作業部会にお邪魔して会議に参加させていただきました。委員や作業部員の活躍のご様子を順次ご報告いたします。

聴覚障害委員会

2月22日（日）午前10時から千葉市のプラザ菜の花で第3回委員会が開催されました。今回は、すでに来年度の研修会の内容が具体的に検討されていました。アンケートの結果、県内で聴覚障害の検査、指導に携わる会員が少なく、また残念ながら関心も高くないと推定されました。しかし、多くの会員が臨床でかかわる障害児・者に聴覚障害が合併することも少なくありません。そのような場合にどのような配慮ができるか、また特別な機器がなくてもどのように対処できるかなど、研修会は、聴覚障害を専門としない会員に役立つ内容とし、聴覚障害への啓発を図ることになりました。第2回研修会にご期待ください。

◇ 作業部会から ◇

◎◎◎ 生涯学習プログラム基礎講座作業部会 ◎◎◎

昨年引き続き『生涯学習プログラム基礎講座』千葉県版を実施

平成20年度、生涯学習プログラム基礎講座千葉県版が11月23日・12月7日の2日間、一基礎講座全部の講座（6講座）と独自の講座（長澤泰子先生）―無事盛況のうちに終えることができました。今回も県外からの参加者があり2日間で基礎講座全部を履修できるメリットが喜ばれました。また長澤先生の「コミュニケーションとは」のご講演は、STとしての根源的なコミュニケーションについて深く考え直すものとして大変好評でした。参加者数は延べ200名弱でした。

来年度は基礎講座に加えて専門講座を実施することが決まり、より充実した生涯学習プログラムの講座を開催する事になりました。今年度同様、来年度も会員の皆様のご支援よろしくお願い申し上げます。



施設紹介

千葉・柏リハビリテーション病院 S T 太田 智子

医療法人社団葵会千葉・柏リハビリテーション病院はのどかな田園風景のある、手賀沼の湖畔に立地しております。近くに鳥類博物館もあり様々な野鳥も見られ、自然あふれる環境です。

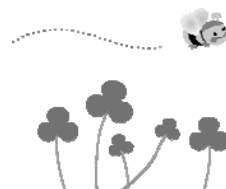
当院は医療型療養病棟232床、回復期リハビリテーション病棟54床、精神科療養病棟60床、認知症治療病棟60床、特殊疾患療養病棟30床の5つに分かれております。リハビリテーション科のスタッフは現在PT17名、OT17名、ST5名です。STは回復期病棟、療養病棟、特殊疾患療養病棟でのリハビリを行っています。

回復期病棟は在宅復帰を目標に掲げ、定期カンファレンスを通して他職種と連携をとりながら日々リハビリに取り組んでいます。また、退院後の生活を想定したリハビリを行うため、実際に自宅を訪問して住宅環境を把握したり、必要に応じて公共機関の利用や買い物場面など病院外に出向くなどしてフォローを行っています。ADLのみでなく、コミュニケーション能力や社会適応能力など、全体像を見て関わりを持つことが重要であると考え、STも院外へ出向きます。

療養病棟および特殊疾患療養病棟は、療養・リハビリテーション治療が必要な方のリハビリを行っています。回復期から移行してきた患者様や医療行為を必要とされる方が多いです。そのため維持的なリハビリテーションや摂食・嚥下訓練を中心に行っています。

昨年より少しずつですが嚥下造影検査も行うようになり、訓練に繋がっています。

病院全体としてSTは5名在籍しており4月には2名増員する予定です。スタッフが多い中で、情報交換や相談などが行いやすい環境づくりを心がけています。



〒277-0902 柏市大井2651 TEL: 04-7160-8300

千葉市障害者福祉センター S T 鈴木 和子・塘 まゆり

千葉市障害者福祉センターは平成11年12月に開設され、千葉市の指定管理を受けて千葉市社会福祉事業団が運営をしています。中央区千葉寺町の複合施設ハーモニープラザの一角にあります。ここには福祉センターの他に千葉市障害者相談センター（更生相談所）、ことぶき大学、女性センター、社会福祉協議会、各種障害者団体などが入っています。

福祉センターでは常勤の所長、事務〈2名〉、指導員、PT、OTがそれぞれ1人の他に、非常勤の整形、神経内科、耳鼻科、眼科の医師、看護師、ST、視覚障害生活指導員、指導員補助、事務補助などのスタッフがいます。事業としては障害のある成人の方を対象とした機能訓練（PT・OT・ST）、講座、施設貸し出し、医療相談、住宅改造相談、福祉器具の展示・相談などを行っています。多目的ホールや屋外運動場、水浴訓練室もあります。

STは聞こえに関する相談には主に塘が週1日勤務して、聴力検査や補聴相談を個別訓練と月1回のグループ訓練（読話）で対応し、失語などのことばに関する相談には鈴木が週2日勤務して、月1～2回の個別訓練と、OTとの協同で月1回のグループ訓練を受け持っています。また必要のある方には訪問援助も行っています。

リハ病院で入院と外来で1～2年の訓練を終えてから来所される方が多いのですが、STのいない病院に入院された場合などは直接来所される場合もあります。右片麻痺のある失語症の方がSTなどの機能訓練の他にバドミントンや卓球、テニス、水中運動、水墨画、編み物などの講座を楽しまれ、そこで得られた仲間と家族ぐるみで交流していく中で、徐々に生き生きとした生活を楽しまれていく様子を拝見できるのはとても嬉しいものです。

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208番地2 千葉市ハーモニープラザ1階
TEL: 043-209-8779 FAX: 043-209-8782

臨床こぼれ話

今回は医師の立場から、医師とSTのつながりと関わりについてお話をいただきました。皆様ももう一度原点に戻り、臨床を振り返る良い機会にしていいただければと思います。

～今まで出会ったSTさんたちと療育のこと～

私が初めて会ったSTさんは、旭中央病院で研修したときに同期だったHさんでした。Hさんが小児科に挨拶に来たときに、(わー、気が合いそう)と思いました。私は、初対面の人にそんな思いばかりを抱く人なつこい人間ではないのですが、なぜそう思ったのか不思議です。幸いにもその期待は裏切られることなく、夜遅く怪しい中華料理屋でご飯を食べたり、韓国式垢すりに行き、二人並んでおばちゃんに垢をすってもらったりしているうちに(って、海外旅行?みたいな文章になってしまいました)、いずれも旭です、念のため)すっかり意気投合し、Hさんが結婚退職した後もお付き合いは続いております。

千葉県千葉リハビリテーションセンターに就職してからは、センター内はもとより、患者さんを通じて沢山のSTさん達にお世話になっております。県内4か所のマザーズや5歳児健診でも一緒にお仕事をさせていただいて、沢山のSTさんたちを思い浮かべて感じることは、STさんにはコミュニケーションが上手な人が多いということです。お仕事柄でしょうか、それとも、もともと人が好きでコミュニケーションが上手な方がSTという職業を選ぶからでしょうか。(蛇足ですが、医者はコミュニケーションがあまり上手でない人が多いと思います)。

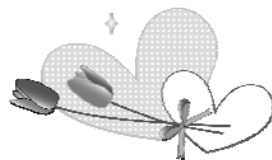
STさんや色々な職種の方に助けられながら療育をしてきて8年が過ぎましたが、生身の人間相手の仕事であることを痛感し続けてきた日々という気がします。(そんなことは、STさんにとって常識中の常識、単なる「はじめの一步」かも知れませんが)。この感覚は、お子さんに対しては割とわかりやすいように思います。しかし、親御さんもまた生身の人間で、たまたま発達に気になるところがあったお子さんの親であることが共通なだけで、親御さんの性格も、子どもの受容も、アドバイスの入りやすさも様々です。子どものタイプだけで一律にアドバイスしてもうまくいかないとわかり、どんな支援の方法を選択していけばよいかかわかり、ようやく少しまとまってきたのかなと思います。

上達したいことは、沢山あります。親御さんに緊張しないで本音をお話していただけるような雰囲気や話術を身につけること、自分自身のコンディションをぶれにくくすること、実際に役に立てる具体的な技を身につけること。いずれもまだまだだなあとありますが、上達したいと願って続けさえすれば、少しずつでもうまくなるような気がします。

この仕事をしていると嬉しいこともいっぱいありますが、辛いときもいっぱいあります。でも、そんなときには、療育という世界で一緒に働いている人たちの顔を思い出して、自分がなぜこの仕事に入ったかを思い出して、いつかしたいことをイメージして(出来るか出来ないかは深く考えずに)、それでも辛いときは美味しいものを食べて寝るに限ります。で、私はそれを言い訳に沢山食べて、ぐーぐー寝てばかりいるのでした。こんな私ですが、今後ともよろしく願いいたします。

千葉県千葉リハビリテーションセンター 小児科 永沢 佳純

※編集部では「臨床こぼれ話」原稿を募集しております。臨床を通して会員・会友の皆様には何かを伝えたいと考えていらっしゃる方は、県士会事務局へメールにてご連絡ください。



◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成20年度 理事会

《第8回》

日時：2008年11月9日（日）10：00～12：30 場所：千葉市黒砂公民館 講習室

出席者：宇野、木下、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、宮下（以上理事6名）

三原（書記）、勝又（介護保険員会）、常田（聴覚障害委員会）、塘（基礎講座作業部会）、楢本（高次脳機能障害委員会）、野島（小児言語障害委員会）、吉田（組織検討委員会）

1. 協議事項

（事務局より）・第7回理事議事録 ・新入会員など ・来年度組織 ・旅費申請 ・日本言語聴覚士協会職能部セミナー案内HP掲載

（選挙管理委員会より）・「選挙告示」「立候補・推薦の手続き」「立候補届出用紙」「推薦届出用紙」「平成20年度選挙日程」

（聴覚障害委員会より）・「聴覚障害に関するアンケート」

（介護保険委員会より）・「介護保険STの集い」

2. 報告事項

（事務局より）・到着郵便物など ・第11回都道府県士会協議会

（摂食嚥下障害委員会より）・第2回議事録

3. 理事・委員会情報交換会

（理事会から報告）・第11回都道府県士会協議会 ・「平成20年度一般会計決算書（案）」

（各委員会からの活動報告および活動計画報告）

《第9回》

日時：2008年12月14日（日）10：00～12：00 場所：千葉市黒砂公民館 講習室

出席者：宇野、木下、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、畠山、山本（以上理事7名）

武田（監事）、稲坂（書記）

1. 協議事項

（事務局より）・第8回理事会議事録 ・新入会員など ・来年度組織 ・旅費（特別料金）の範囲 ・ニュース29構成案 ・平成21年度総会資料作成計画 ・協会ニュース原稿依頼

（学術局より）・来年度研修計画 ・研修会報告集 ・第1回研修計画 ・局会議旅費

（社会局より）・年賀状

（リハビリ公開講座作業部会より）・次年度リハビリテーション公開講座

（生涯学習プログラム基礎講座作業部会より）・次年度生涯学習専門講座開催

2. 報告事項

（事務局より）・到着郵送物など

（学術局より）・第3回議事録

（高次脳機能障害委員会より）・第2回議事録

（小児言語障害委員会より）・「学校教育に関するアンケート結果」 ・「こどものコミュニケーションを育てる外房のつどい」反省 ・第4回議事録

（生涯学習プログラム基礎講座作業部会より）・第3回議事録

《第10回》

日時：2009年1月18日（日）9：01～11：02 場所：千葉大学附属病院 3階 第3会議室

出席者：宇野、木下、斉藤公人、斉藤順子、畠山、山本、宮下（以上理事7名）

竹中（監事）、三原（書記）

1. 協議事項

（事務局より）・第9回理事会議事録 ・新入会員など ・来年度理事、委員候補 ・平成20年度活動報告

（学術局より）・平成21年度第1回研修会

（小児言語障害委員会より）・今年度反省、次年度計画 ・学校教育に関するアンケート結果（案）

(生涯学習プログラム基礎講座作業部会より)・今年度反省、次年度計画 ・次年度生涯学習プログラム専門講座

2. 報告事項

(事務局より)・到着郵送物など

(社会局より)・学術局報告集のHP掲載

(小児言語障害委員会より)・第5回議事録 ・第2回教育にかかわる言語聴覚士との情報交換会議事録

(生涯学習プログラム基礎講座作業部会より)・第4回議事録

(リハビリテーション公開講座作業部会より)・作業部員候補

◆ 平成20年度 学術局

《第3回》

日時：2008年11月16日(日) 10:00～12:00 場所：プラザ菜の花 2階 サークル室

出席者：大浦、神作、木下、田野、野島、前里、前田、宮下、寄本

(委任状出席) 田村、長岐、羽山、四方田 (以上局員11名、理事2名)

・今年度反省 ・次年度計画 ・第2回議事録確認 ・第3回研修会計画確認

《第4回》

日時：2009年1月18日(日) 17:00～19:00 場所：千葉大学医学部附属病院 第2講堂

出席者：大浦、神作、木下、田野、野島、前里、前田、宮下、寄本

(委任状出席) 長岐、田村、羽山、四方田 (以上局員11名、理事2名)

・第3回研修会反省 ・第3回議事録確認 ・次年度計画 ・資料集作成

◆ 平成20年度 組織検討委員会

《第3回》

日時：2009年1月25日(日) 9:30～11:00 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：平山、番、鎗田、山本、吉田 (以上4名、理事1名)

・千葉県言語聴覚士会法人化 ・本会活動 ・来年度委員会 ・本会内部組織改変

◆ 平成20年度 小児言語障害委員会

《第4回》

日時：2008年11月16日(日) 13:30～17:00 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：宇井、宇野、太田、那須、野島、長谷川 (委任出席) 北見 (以上6名、理事1名)

・「こどものコミュニケーションを育てる外房のつどい」反省 ・次回教育に関わる言語聴覚士との情報交換会

・「学校教育に関するアンケート」結果分析 ・小児言語障害委員会活動内容見直し

《第5回》

日時：2008年12月21日(日) 12:58～14:58 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：宇井、宇野、太田、那須、野島、長谷川 (委任出席) 北見 (以上6名、理事1名)

・第2回教育に関わる言語聴覚士との情報交換会反省 ・「学校教育に関するアンケート」結果分析の今後の方向
・今年度反省 ・次年度計画

◆ 平成20年度 高次脳機能障害委員会

《第2回》

日時：2008年11月9日(日) 13:30～15:30 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：宇野、佐藤、鈴木、楢本、廣瀬 (以上委員4名、理事1名)

・認知課題実態調査 ・認知課題に関する研修会

◆ 平成20年度 基礎講座作業部会

《第3回》

日時：2008年11月23日（日）17：00～18：00 場所：千葉市民会館

出席者：荒木、宇治、岡松、木下、塘、野島（以上部員4名、理事1名、当日手伝い1名）

・受講者と委員会連絡の連絡 ・講義内容 ・次回講師連絡 ・申込締切期限 ・印刷枚数 ・受付位置

《第4回》

日時：2008年12月7日（日）17：30～19：00 場所：千葉市民会館

出席者：荒木、宇治、岡松、木下、塘、西脇、野島（以上部員5名、理事1名、当日手伝い1名）

・当日運営面反省 ・当日までの運営面 ・今回アンケートと礼状 ・来年度基本方針 ・今年度反省 ・来年度会計予算 ・来年度部員候補

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

◇ 事務局から ◇

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 年会費納入のお願い

平成21年度分の年会費のお支払いをお願いいたします。年会費は前納制となっておりますのでまだお支払いでない方は至急お手続きなさってください。本会の会則により、2年以上会費未納の場合退会とみなされますのでご注意ください。

研修会、総会にて現金でもお支払い頂けますが、なるべく郵便振替をご利用頂きますようご協力をお願いいたします。振替先はゆうちょ銀行からのお支払いの場合は従来どおり 記号番号 00120-6-39932 千葉県言語聴覚士会 です。本年1月よりゆうちょ以外の金融機関よりの振込みも可能になりました。その際は、銀行名：ゆうちょ銀行、金融機関コード：9900、店番：019、店名（カナ）：〇一九店（ゼロイチキュー店）、預金種目：当座、口座番号：0039932、カナ氏名（受取人名）：チバケンゲンゴチョウカクシカイ となります。

3. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

4. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

5. 新入会員のお知らせ (敬称略)

会員数：正会員 317 名・会友 47 名・賛助会員:6 団体+1名

(平成21年2月15日 理事会承認分まで)

・・・正会員・・・

木伏 結(亀田メディカルセンター)

加藤 寿々恵(筑波大学附属病院)

藤倉 由美(松戸神経内科)

黒谷 まゆみ(千葉県こども病院)

篠田 克己(葛飾区地域福祉・障害者センター)

・・・会友・・・

成田 弥生(介護老人保健施設 あすなろ)

伊沢 彩乃(自治医科大学 大学院)



☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

編集後記：2年間の理事の仕事は戸惑いながらも、短い期間の中でとても良い経験をさせていただきました。何か皆様の心に残る物をお届けすることはできたでしょうか？ まだ、寒暖の差が激しい季節です。お身体ご自愛ください。会員・会友の皆様にはご協力いただき有難うございました。今後も県士会活動へのご協力をお願いいたします。

事務局

〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX：043-243-2524

E-mail：chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：http://chibakenshikai.moo.jp/ 会員専用パスワード：affordance

..... 求人情報

詳細は千葉県言語聴覚士会ホームページ (<http://chibakenshikai.moo.jp/>) をご覧ください。
【表の見方】 ①募集内容（記載がなければ言語聴覚士の募集）、②業務内容、③住所、④連絡先

LD・Dyslexia センター	
①	常勤／非常勤等の勤務形態、人数等 非常勤、若干名
②	対象・業務内容等 発達性 dyslexia、SLI、小児失語症：評価、訓練
③	住所 市川市市川南 3-1-1-315
④	連絡先（電話等）・担当 LDDX2004@hotmail.com 宇野、春原

施設名 医療法人財団天翁会 新天本病院	
①	常勤 言語聴覚士 3名 経験者・新卒
②	成人（失語症・構音障害・嚥下障害）／勤務先は病院または介護老人保健施設／ホームページもご参照ください。 http://www.ten-ou-kai.or.jp
③	〒206-0036 東京都多摩市中沢 2-5-1
④	042-375-9644 080-1170-0791 pr-pl@ten-ou-kai.or.jp 奥村（採用担当） 042-310-0370 田上（リハ科長）

施設名 医療法人 鳳生会 成田病院	
①	常勤 1名（経験者または新卒者）
②	対象：成人（急性期～慢性期） 失語症、構音障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害
③	住所：〒286-0845 千葉県成田市押畑 896
④	連絡先：0476-22-1500 総合リハビリテーションセンター 担当：高見澤／鶴澤

医療法人 公明会 塩田病院	
①	常勤 2名（既卒・新卒は問わず）
②	対象：成人（失語症・構音障害・嚥下障害など）／勤務時間：8時40分～17時40分（休憩60分）／休日：日曜、祝日、研究日（曜日指定）・年末年始（週休2日）／老人保健施設でのリハビリテーションも行っています。詳細はお問い合わせください。
③	〒299-5224 千葉県勝浦市出水 1221
④	0470-73-8039／リハビリテーション科 PT 早川 ST 斉藤



補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ、「財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。



認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉

